

## 政策・総務・財政委員会行政視察概要

1 視察月日 平成30年7月11日（水）～7月13日（金）

2 視察先及び視察事項

（1）北海道下川町

ふるさと納税型クラウドファンディングについて

（2）北海道札幌市

ア 札幌市民交流プラザについて

イ 札幌文化芸術劇場について

（3）北海道札幌市

二条小学校の複合校舎について

3 視察委員

委員長 渋谷 健

副委員長 今野 典人

同 和田 卓生

委員 梶村 充

同 山本 たかし

同 渡邊 忠則

同 花上 喜代志

同 望月 高德

同 中島 光徳

同 荒木 由美子

## 視察概要

### 1 視察先

北海道下川町

### 2 視察月日

7月11日（水）

### 3 対応者

町議会議長（挨拶・説明）

議会事務局局長（挨拶・説明）

政策推進課長（説明）

教育課主査（説明）

### 4 視察内容

ふるさと納税型クラウドファンディングについて

ア ふるさと納税制度の活用について

「森林（もり）と大地と人が輝くまち・しもかわ」の将来像のもと、循環型森林経営をはじめ、環境未来都市の具現化事業など地域振興のためのさまざまな取り組みを進めていくため、下川町のまちづくり、ふるさとづくりに共感してもらえるような寄附という形の応援を受ける仕組みとして、「ふるさと納税」制度を活用している。下川町では、アスパラ需要のある4月～5月と、駆け込み需要のある12月が寄附件数の約6割を占めている。平成29年4月1日総務省通知により、寄附件数・金額が減少傾向にある。

イ 寄附金の使い道

○ジャンプ選手育成支援事業

下川町はスキージャンプ界のレジェンド葛西選手を初め、多くのジャンプ選手を輩出している町である。寄附金は、未来のオリンピックを目指すスキージャンプ選手の育成や、スキージャンプ板の購入等に活用している。

○森林（もり）づくり寄附金

循環型森林経営を中心とした持続可能な森林づくりを進めるために、森林づくり寄附条例に基づき「森林づくり基金」で管理し、毎年一定額を森林づくりに活用している。

○環境未来都市推進事業

下川町は「環境未来都市」として、多くの地域が抱える少子高齢化や環境・エネルギーなどの課題をいち早く解決するモデルとなるさまざまな取り組みを進めている。環境未来都市推進事業への寄附金は、エネルギー自給や高齢化対応に向けた取り組みや、町民が中心となって進める地域を元気にする企画・活動などに活用している。

#### ○青少年育成事業

- ・図書購入・青少年健全育成

青少年のための図書購入や青少年健全育成に活用

- ・ふるさとづくり事業

地域資源を生かした産業振興などに活用

- ・社会福祉事業

高齢者支援、障害者支援、子育て支援などに活用

- ・あけぼの園（特別養護老人ホーム）事業

あけぼの園の事業活動に活用

#### ウ ふるさと納税型クラウドファンディングに至った経緯

下川町は北海道の北部に位置しており、約半年もの間雪が積もり、寒い時には氷点下30℃以下になる寒冷地である。スキー場には大小4つのジャンプ台（下川ジャンツェ）があり、たくさんの選手が育っている。今年2月に行われた韓国平昌オリンピックには下川町出身選手が3名出場し、テストジャンパーとして地元高校生10名が派遣された。これまでにオリンピック9大会に7名の選手を輩出しており、岡部孝信、葛西紀明、伊東大貴の3選手が6個のメダルを獲得している。このメダル獲得数は、国内市町村別最多になる。

現在、下川ジャンプ少年団には18名、下川商業高校スキー部には6名が所属しており、下川町出身の先輩のように世界で活躍するという大きな目標に向かってトレーニング重ねているが、古くなった用具は、空中でスキーが外れるなど危険が伴い、けがをしたり、心理的な悪影響が心配されている。そこで、ガバメントクラウドファンディング実施業者である株式会社マクアケとプロジェクトを立ち上げ、優先順位が一番高い、シューズ、ビンディング、スキーなどの用具を新しく揃えるため、一式25万円×選手20名分で500万円を目標金額に設定した。また、選手活動費（遠征費）への補助や、ジャンプ台整備器具などへの使い道も考えている。

## エ 質疑概要

Q 今回のクラウドファンディングによる寄附を継続するつもりなのか。

A クラウドファンディングは短期でやるべき事業なので、今回の事業については7月20日に締め切る予定である。同じような事業を再び行う際は、スキージャンプに関わるものであってもテーマを変えて行うつもりである。

Q 通常のクラウドファンディングとガバメントファンディングの違いは何か。

A ガバメントファンディングは行政がかかわるふるさと納税型クラウドファンディングになるため、世間に対する信頼性が高い。単なる返礼品目的にならず、共通の目的を達成させることに賛同してくれる方からの寄附が集まっている。

Q 今回のクラウドファンディング事業を行って特によかった点は何か。

A マクアケという業者と組むことによって、下川町の取り組みを世間に発信できた点である。下川町のホームページを見てもらおうといくら努力しても閲覧数を上げるのは難しかったが、5月15日に東京で行われたプロジェクトの正式発表後、問い合わせが急増した。

Q クラウドファンディングに係る経費はどれくらいか。

A 民間企業を対象にした通常のクラウドファンディングであると寄附金額の20パーセントが手数料になるが、今回、下川町は自治体ということもあり手数料が10パーセントとなっている。また、通常、スタート段階で発生する15～20万円の前払い金もかからなかった。

Q クラウドファンディングが目標金額に達しなかった場合はどうなるのか。

A 今回は目標金額に達しなくても寄附ができることになっている。

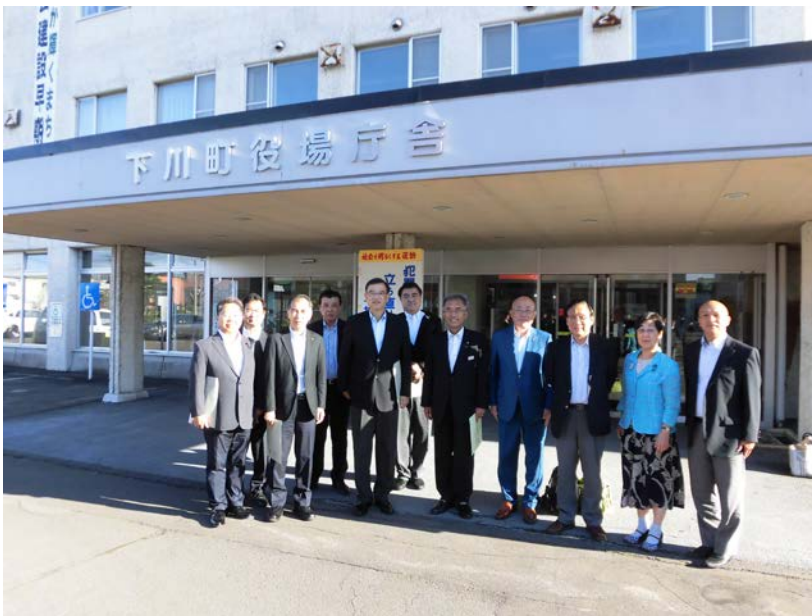
Q 広大な森林を活用してどのような事業を行っているのか。

A 町の9割の面積が森林であるが、そのほとんどが国有林である。国有林の払い下げを受けて、町有林をふやしてきた経緯がある。平成16年に公共温泉である五味温泉に初めて木質バイオマスエネルギー熱供給施設を整備し、木材加工の過程で発生した最後に

残った部分をチップ化して燃料にしている。このような事業が認められ、環境モデル都市に選定された。



下川町役場会議室にて説明聴取



下川町役場入り口にて

## 視察概要

### 1 視察先

北海道札幌市

### 2 視察月日

7月12日（木）

### 3 対応者

市民文化局市民交流プラザ開設担当課

市民交流プラザ開設担当課長

（挨拶・説明）

市民交流プラザ開設担当係長

（説明）

まちづくり政策局都心まちづくり推進室

プロジェクト担当係長

（説明）

### 4 視察内容

#### （1）札幌市民交流プラザについて

##### ア 工事概要

- ・施設名称：さっぽろ創世スクエア
- ・施工場所：札幌市中央区北1条西1丁目
- ・発注者：札幌創世1. 1. 1区北1西1地区市街地再開発組合
- ・組合員：札幌市・明治安田生命保険相互会社、パーク二四（株）、北海道テレビ放送（株）、（株）札幌振興公社、（株）朝日新聞社、（株）北海道熱供給公社
- ・設計監理：日建設計・北海道日建設計共同企業体
- ・施工者：大成建設・岩田地崎建設・伊藤組土建・岩倉建設・丸彦渡辺建設共同企業体
- ・全体工期：H27年1月19日～H30年5月31日（3年5カ月）
- ・延べ面積：13万1891.72平方メートル
- ・階数（建築基準法上の階数）  
高層棟：地下5階・地上28階・塔屋1階  
低層棟：地下5階・地上13階
- ・最高高さ：131.05メートル
- ・基礎深さ：24.7メートル

##### イ 札幌文化芸術交流センターの概要

- 基本的な考え方

札幌の文化芸術を支え、育てていく、文化芸術の中心的な拠点

○スカーツコート（1階）

【整備内容】（165平方メートル）

- ・グリッド天井
- ・可動式の壁（展示パネル）

【用途】

- ・130人規模の演奏会等
- ・作品展示

○スカーツモール（1階）

【整備内容】

- ・1～3階の吹き抜け空間

【用途】

- ・作品発表・展示・物販
- ・プロモーションイベント

○スカーツスタジオ（2階）

【整備内容】（82平方メートル×2）

- ・ガラス張り空間

【用途】

- ・作品制作・展示
- ・ワークショップ各種講座

ウ 札幌市図書・情報館の概要

○基本的な考え方

市民の新たな発想と創造、札幌の未来につなげる課題解決型図書館であり、約4万冊以上の図書、600種類以上の雑誌、90種類の新聞の蔵書を予定。

エ 施設の防災機能について

○制振構造

制振ダンパーを導入し、地震発生時の揺れを抑える。

○帰宅困難者の一時収容場所

3日分の非常用電源、空調容量、飲料水、雑用水を確保し、汚水槽も完備している。

(2) 札幌文化芸術劇場について

ア 札幌文化芸術劇場（hitaru）の概要

○基本的な考え方

本格的な舞台芸術、さまざまな公演の鑑賞のほか、舞台芸術の創

造・発信により文化芸術水準を高めていく札幌・北海道の文化芸術の殿堂を目指す。

○ホール（５階～９階）

【整備内容】

- ・ 2302席の客席
- ・ 多面舞台
- ・ 音響反射板
- ・ 音響・照明設備

○クリエイティブスタジオ（３階）

【整備内容】（448平方メートル）

- ・ ホール主舞台と同規模の面積
- ・ 遮音防振構造
- ・ 175席の移動観覧席

【用途】

- ・ 大規模な練習
- ・ 劇場公演のリハーサル
- ・ 200人規模の公演・発表会

○小練習室３室・中練習室２室（３階）

- ・ 比較的小規模な練習に使用

（３）質疑概要

Q この場所にはもともと何があったのか。

A 大きな駐車場と民間ビルが２棟あった。もともと低利用の土地であったため、都心の有効活用という観点から、高度利用を目指して再開発が進められた。

Q 再開発にはどのような手法を使用しているのか。

A 第一種市街地都市開発事業による都市開発と容積緩和のための都市再生特別地区により100パーセントの容積緩和がされている。もともこの地区は800パーセントのエリアだが、100パーセント上乘せして900パーセントの容積率で整備している。

Q どういうプロセスで札幌文化芸術劇場の基本的な考え方が決まったのか。

A もともと札幌市民会館があり、その建てかえについての議論がスタートになる。時代の流れで議論が変わっていき、厚生年金会館の代替え施設という色合いが濃くなってきた。そのため、劇場の収容人数に関しては、厚生年金会館の使用実態を参考にしたり、地元の



舞台関係者や芸術関係者の方々からも意見を聞くということを繰り返して進めてきた。

Q 参考にした劇場はあるのか。

A 神奈川芸術劇場や新国立劇場などを参考にした。

Q 議会とのかかわりについてはどうだったか。

A 過去からの経緯がある事業なので、その都度議会に報告し、意見をもらうということを幾度となく繰り返してかたちをつくっていった。特に費用対効果の部分については、何年にもわたって議論があった。

Q 芸術劇場の運営主体はどこか。

A 札幌コンサートホールKitaraを運営している札幌市芸術文化財団と4年間、指定管理の協定を結んでいる。

Q 芸術劇場の整備で工夫した点は何か。

A オペラを上演する際には、幕の切りかえ時、20分の休憩時間内に大規模なセットを一瞬にして変えて、全く違う風景にする必要がある。多面舞台が有利なのは、大規模なセットをあらかじめ組んでおき、そのスペースに隠しておくことができる点にある。また、劇場の座席数はポップスコンサートを想定して確保した。



創世スクエア内会議室にて説明聴取

## 視察概要

### 1 視察先

北海道札幌市

### 2 視察月日

7月13日（金）

### 3 対応者

教育委員会学校施設課計画係長（挨拶・説明）

### 4 視察内容

二条小学校の複合校舎について

#### ア 二条小学校改築事業概要

- ・面積：校舎8325平方メートル、  
屋運1258平方メートル（児童会館315平方メートル、地域交流施設450平方メートル）
- ・構造：校舎RC造一部SRC造4階建、屋内運動場棟SRC造一部S造2階建
- ・特徴：「札幌市市有建築物の配置基本方針」に基づく最初の地域交流施設・児童会館との複合施設、外断熱、屋内プールペレットボイラー、太陽光発電設備、給食室

#### イ 事業スケジュール

平成25年6月～平成26年3月：基本設計（標準型（指名型）プロポーザル方式）

平成26年4月～平成27年3月：実施設計

平成27年6月～平成28年3月：屋運改築工事、仮設廊下設置

平成28年4月～平成29年3月：校舎改築工事

平成29年4月～平成29年8月：既存校舎解体、仮設廊下解体

平成29年8月～平成30年3月：グラウンド工事

#### ウ 新校舎の特徴

##### 【多様な活動空間の形成】

##### ○ワークスペース

普通教室と廊下との間仕切り壁をなくし、オープンな学習が行えるように整備している。従来の廊下にあたる部分をワークスペースとし、そこを教室に取り込むことによって学級単位だけではなく、

学年単位での授業など、多様な授業展開が可能になる。

○多目的室

児童のイベントや談話など、隣の学級や異なる学年の触れ合いの場として利用したり、教室以外の学習の活動の場として利用している。また、ランチルーム、少人数学習や視聴覚機能などを持たせた多目的室として多様な用途に応じた活動ができるようにも整備している。

【バリアフリー対策】

○エレベーター

基本的には給食の運搬用に整備しているが、必要な場合に人荷に対応できるように整備。給食運搬用の小荷物昇降機は、改築校に設置していない。

○多目的トイレ

改築校舎では、車椅子利用者の方などを想定し、必要な広さを確保し、また、手すり等設備を設置し、多様な人の利用を想定したトイレを各階に1カ所整備している（オストメイト対応については、1階にのみ設置）。

エ 地域施設としての機能の複合化

「札幌市避難場所基本計画」に基づく避難場所の他に、平成26年度に策定された「札幌市市有建築物の配置基本方針」に基づき、地域に必要な機能を確保し、施設の複合化を実施した。

○災害時の避難所

・受水槽に設置する非常用給水栓

近年改築している校舎の給水設備は、一度、受水槽に水をためて、ポンプで圧力を加えて給水する方式を採用している。地震などで断水となった時に、受水槽にたまっていた水を直接使用できるように、給水栓（蛇口）を設置している。

・ガス変換機接続口

災害時において、各インフラが寸断された場合に、都市ガスの復旧が一番遅いと言われている。そこで、ガス事業者はガス変換機という、プロパンガスを都市ガス用の器具に使えるように、変換する装置を保有している。この装置を速やかに取り付けられるようにガス管に接続口を設置している。ガス変換機を使用することにより冬季の災害でのガス暖房や家庭科室のガスコンロなどの利用が可能になる。

## ・備蓄庫

札幌市では、市内の小中学校に災害用備蓄庫の整備を進めており、災害救助用の毛布や寝袋、そして米やパンなどの食料が保管されている。

### ○まちづくりセンター・児童会館の複合化

「札幌市避難場所基本計画」に基づき地域交流施設、児童会館との複合化を行った。管理上の動線は全て分離させるが、児童・生徒の行き来等を考慮し、学校と児童会館の玄関は隣接させるよう検討した。また、多世代交流を促すため、二条小学校以降の学校施設には「多目的ホール」を設置している。

## オ 体験的な環境学習を促し、児童の成長を促す施設づくり

自然エネルギーを利用する等の環境負荷の低減を図る。また、実際に見て、体験することで、自然に対する関心を高め、みずから解決できる力を育めるように自然環境学習を行えるよう整備した。

### ○外断熱

外断熱工法を採用することで、建物内部の室温を一定に保つことができ、暖房面での省エネルギー化を図った。

### ○太陽光発電パネル

学校で消費する電力の一部を賄っており、環境学習の教材としても利用できるようになっている。また、非常用の電源としても利用できるよう整備している。

### ○ペレットボイラー

ペレット（間伐材などの木材を圧縮した固形の燃料）を燃焼し暖房等に利用している。化石燃料を用いないことで、二酸化炭素の増加を防ぐことにつながる。

## カ 質疑概要

Q 中学生、高校生の児童会館の利用状況はどうなっているのか。

A 開設からまだ2年ほどしかたっておらず、周知し切れていない部分もあり利用率が低い。近隣の学校にはチラシを配布するなどし、利用率を高める努力をしており、休日に学習する中高生の利用が最近ふえてきている。

Q 集会室の利用は有料なのか。

A 週1回ほど開催されている子育てサロンを開催する際は無料で貸し出している。月謝をとって活動しているサークルは有料になっている。

Q 多目的室の整備で工夫した点は何か。

A ランチルーム、少人数学習、視聴覚機能対応とそれぞれ特徴を持たせた多目的室を3室整備している。多目的室の1つを1階に配置し、いろいろなイベントが重なって児童会館等が混んだ時に、地域の方々を収容できるようにした。

Q ペレットボイラーの運用状況について知りたい。

A イニシャルコストは4000万円ほどで、ランニングコストについての補助金はない。都市ガスや化石燃料を使うよりも経費としては高くついてしまうが、廃材を利用できる等、環境によいので使用している。下川町で生産されたペレットも燃料として利用している。



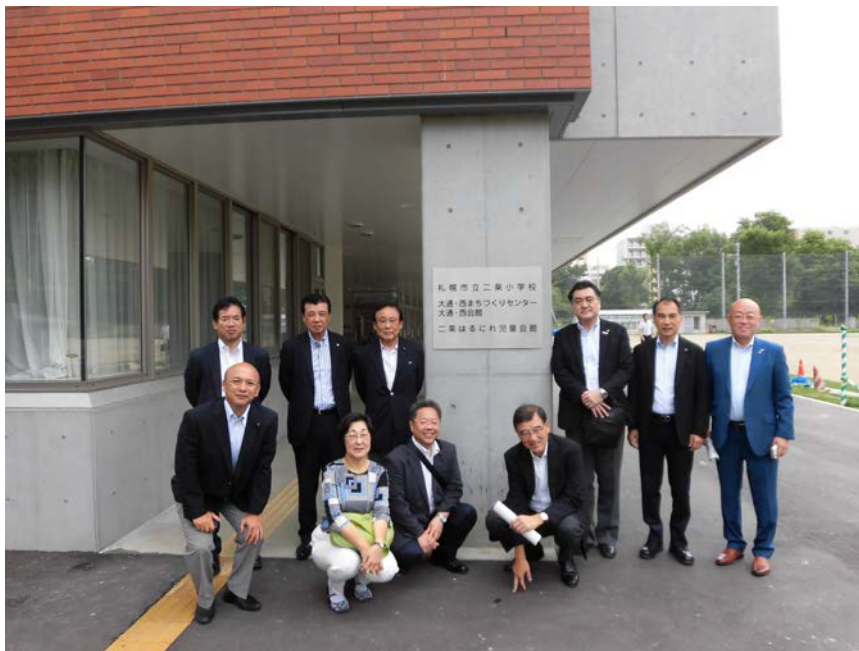
二条小学校玄関にて説明聴取



屋内プールにて



ペレットボイラーについて説明聴取



二条小学校入り口にて